

# 令和 4(2022)年度 事業計画書

(第 30 期)

自 令和 4 年 4 月 1 日  
至 令和 5 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団  
大阪府枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

## 令和4年度 事業計画書

令和2年始めから世界中に広がったコロナウイルス禍は、感染力の強い変異種の発現などにより、各国で感染者数増減の波を繰り返し、令和3年末には日本国内では1日の新規感染者数が2桁まで減少してきたが、海外では数十万人を超える国もあり、国内でもまだ予断を許さない事態が続いている。このような状況の中で、様々なイベントや会議等の開催が制限され、これらに対応してテレワークやリモート会議、オンラインセミナーなどの新しいコミュニケーション手法が取り入れられ、次第に定着しつつある様相を呈している。また、政治経済の分野では、大国間の覇権争いや原油高による物価高、米国等での顕著なインフレーション等々の影響も受けながら、結果的に令和3年の1年間で大幅な円安傾向がみられた。

このような背景の下、当財団で発行している年刊英文学術誌 **KONA Powder and Particle Journal** は予定通り出版することができたが、当初令和3年度に予定していた第54回粉体工学に関する講演討論会ならびに第27回ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催を見送り、来年度に延期することとなった。助成事業の贈呈式についても本年度は中止することが決定された。一方、上記の円安傾向への変化により本年度の収入の大幅な増加が見込まれることから、令和3年度の事業計画と特定事業の見直しにより、助成事業の採択枠の増大と共に特定事業の一部追加が承認された。

当財団は平成3年(1991年)12月に設立され、具体的に事業が開始されてから令和4年(2022年)は実質的に設立30周年となる。加えて、この2年間程は様々な事業が延期されてきた事情があり、令和4年度は新たな出発の年度になることが期待されている。

令和4年度も、様々な点でまだ不透明な要素が残されているものの、研究助成事業を中心として、**KONA** 誌の出版を継続すると共に、本年度は、粉体工学に関する講演討論会の開催等により、粉体工学ならびに技術に関連した分野の発展に貢献していく方針である。また、粉体技術談話会と共催しているホソカワ粉体工学シンポジウムについても、状況が許せば、延期となっている京都大学での開催を予定している。

また、令和2年度から積立を開始した「設立30周年記念特定事業」については、令和3年度から延期となっていた、設立30周年特別講演会を令和4年度に開催し、令和5年度に国際ホソカワ粉体工学シンポジウムを開催の予定となっている。この特定事業の中で、令和3年度は予定通り **APT(Asian Particle Technology)2021** シンポジウムにて **Young KONA Award** の授与を行ったが、令和4年度には **ICCCI2022** にて同様の賞の設定が組み入れられている。

令和4年度は、まだ不確定な部分も多いが、関係者の引継ぎ準備を含めて、例年に増して行事の多い年度になることが予想され、状況の変化に対応しながら、円滑な財団の運営、意味のある事業活動の継続を目指している。

## I. 助成関連事業

令和4年度は3年度と同様に、以下の4つの助成事業を継続して実施する。  
予算額 2,692 万円（事業管理費を含む）

1. 粉体工学に関する優れた研究業績に対する褒賞（KONA 賞）
2. 粉体工学に関する研究のための研究費助成（研究助成）
3. 粉体工学に関する研究に従事する研究者の育成の援助（研究者育成援助）
4. 粉体工学に関する研究成果公開の援助（シンポジウム等の開催援助）

KONA 賞は、粉体工学の分野において多大な貢献をされた研究者に授与されるもので、当財団設立当初より平成28年度まで日本人が推薦され受賞してきたが、平成29年度に初めてグローバルベースで推薦の応募を受け、審査する体制作りを確立した。平成29年度と30年度は欧州、令和元年度は日本、そして2年度は米国の研究者が選定され、名実ともに国際賞の様相を呈してきた。そして、令和3年度は欧州と日本の研究者が受賞している。令和4年度は、この国際化の6年目となり、この国際的な推薦募集、選考審査システムのグローバルで円滑な運営を継続し、その充実化を図っていく予定である。

研究助成については、近年粉体材料に重点を置いた研究が注目される傾向にあるが、引き続き粉体工学に焦点を当てた研究もより重視していく方針である。なお、研究助成等の申請書については、これまで郵送のみに限定していたが、令和4年度はメールでのデジタルファイルで受け付けるように変更の予定である。

## II. 特定事業

当財団の運用ならびに支出状況を考慮しながら令和元年度から積立を行ってきた設立30周年記念特定事業について、令和3年度第2回理事会にて下記のように進めることが承認されている。

・資金の名称：(ホソカワ粉体工学振興財団) 設立30周年記念特定費用準備資金

・活動の名称：(ホソカワ粉体工学振興財団) 設立30周年記念特定事業

・活動の内容：

- ① 令和3年(2021年)に、日本で初めて開催されるAPTシンポジウムの機会に、若手研究者を対象としたYoung KONA Awardを設定し、その授与を行う。
- ② 令和4年(2022年)に、当財団の設立30周年を記念して、毎年開かれている粉体工学に関する講演討論会の際に、海外からの講演者を招聘して特別講演を依頼するなどにより、例年よりも規模を拡大した講演討論会とする。
- ③ 令和4年(2022年)11月に山梨で開催される粉体工学および粉体材料関連の国際会議ICCCI 2022にて、KONA Young Researcher Award等を設定し、その授与を行う。
- ④ 令和5年(2023年)に、第4回の国際ホソカワ粉体工学シンポジウムをドイツにて開催する。

・計画期間：令和2年(2020年)3月～令和6年(2024年)3月

・活動の実施予定時期・予算

予算（実施年度）

- |  |               |
|--|---------------|
| ① APT(Asian Particle Technology)2021 シンポジウム<br>(令和3年10月、大阪)での Young KONA Award の授与 | 100 万円(令和3年度) |
| ② 設立30周年特別講演会(令和4年9月頃、大阪)  | 400 万円(令和4年度) |

③ ICCCI(第7回先進材料の界面制御と評価に関する国際会議) 2022 シンポジウム(令和4年11月、山梨)での KONA Young Researcher Award、KONA Achievement Award の授与	100 万円(令和4年度)
④ 第4回国際ホソカワ粉体工学シンポジウム (令和5年春、ドイツ)の開催	400 万円(令和5年度)
	<u>合計 1,000 万円</u>

・積立額:

令和元年度	150 万円
令和2年度	600 万円
令和3年度	150 万円
令和4年度	50 万円
令和5年度	50 万円
合計	<u>1,000 万円</u>

### III. 財団自主事業

#### 1. 粉体工学に関する講演討論会の開催

- ① 予算額 460 万円
- ② 趣旨・内容

粉体工学の当面の重要課題を選び、第一線の研究者(5~6名)から最近の研究成果について講演して頂き、その課題に関心をもつ研究者・技術者の参加を募集する。講演と討論を通じて粉体工学の発展に資することを目的とする。毎年1回、会場は大阪・東京において隔年開催を原則とする。

当初令和2年度に計画し、延期となっていた第54回粉体工学に関する講演討論会を、内容はほぼ継承しながら、KONA賞2019と2020の受賞講演を追加して、日米からの受賞講演を含む講演討論会とする予定である。開催日は2022年9月5日(月)として帝国ホテル大阪での開催が予定されている。今回の講演討論会は、設立30周年記念講演と合わせて開催の予定であるが、コロナ感染対策に十分に配慮しながら、安全かつ実りある討論会にしていく必要がある。

- ③経費および用務の分担

本講演討論会の企画については粉体技術談話会に委嘱し、そこでテーマの設定、講演者・討論の司会者の選定等を行う。参加費はすべて無料とし、講師謝礼、旅費、宿泊費およびテキスト印刷費などの予算を計上する。

#### 2. KONA 誌 (KONA Powder and Particle Journal) の発行

- ① 予算額 770 万円
- ② 趣旨・内容

KONA 誌は当財団が年1回発行する粉体工学に関する英文の学術誌であり、世界中の研究者から粉体の科学および工学に関する研究およびレビュー論文を集め、これらを編

集して発行し、全世界の関連する研究者、研究機関、図書館などに広く無償で配布している。KONA 誌はインターネットを通じて無料でダウンロードすることもできる。2010年6月から Journal Citation Report に KONA 誌のインパクト・ファクターが収録されている。また、2013年12月から JST が運営するオンライン学術論文データベース J-STAGE への掲載も行われている。

令和3年度(2021年度)に出版した No.39(2022)の掲載論文数は18編、頁数は277頁で、800部を印刷し、国内外に発送した。次号 No.40(2023)の出版についても、アジアブロックの企画・編集・査読等を粉体技術談話会に委嘱すると共に、欧米の編集委員会の協力を得ながら、2023年はじめの出版を目指して進めていく。本誌への論文の投稿については、主にアジアと欧米の3ブロックの編集委員会毎に編集委員からレビュー論文に重点を置いて推薦を募り、一般の自由投稿については編集委員長の判断で査読を経て、編集、出版される。その際、KONA 誌出版のために、2017年から導入が開始された JST の支援によるオンライン投稿・査読システムの運用が定着してきたが、さらに欧米ブロックの編集委員会の協力を得ながら、より円滑な投稿・査読・編集等を進めていく。

#### IV. 年報の発行

- ① 予算額 66万円
- ② 趣旨・内容

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果を公表するために発行される。年報は以下の内容を含む。

- (1) 理事長挨拶
- (2) 事業内容と実施状況の概要
- (3) 役員等名簿
- (4) 助成・表彰事業
- (5) 研究成果等の報告

なお、当財団の年報は、平成29年5月に出版した平成28年度年報 No.24 が、その出版翌月に初めて J-STAGE に掲載された。そして、平成30年度には、PDF データが入手できた年報 No.12 (平成16[2004]年度)まで遡ってのバックナンバーの掲載を実施した。令和4年度は、令和3年度年報 No.29(2021)を財団ホームページに掲載すると共に、この J-STAGE への掲載を進めていく。

以上